

未来をつなぐテクノロジー

知識と経験の融合で、最適なソリューションを提供

2024 ▶

DX戦略

Digital Transformation

2024年8月20日

QSS 株式会社 九州しんきん情報サービス

DX_Vision

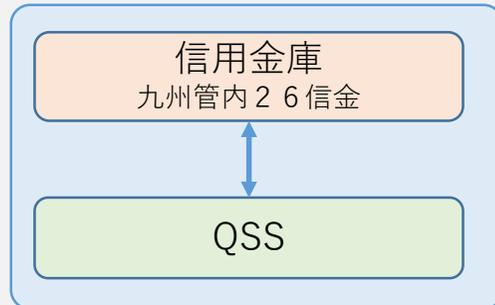


1. 全体像

地域に根差した信用金庫と共に地域の発展に貢献

(As-Is) 共存から

信用金庫の事務処理効率化等を中心とした様々なサービスを提供し、金庫経営をサポートしています。

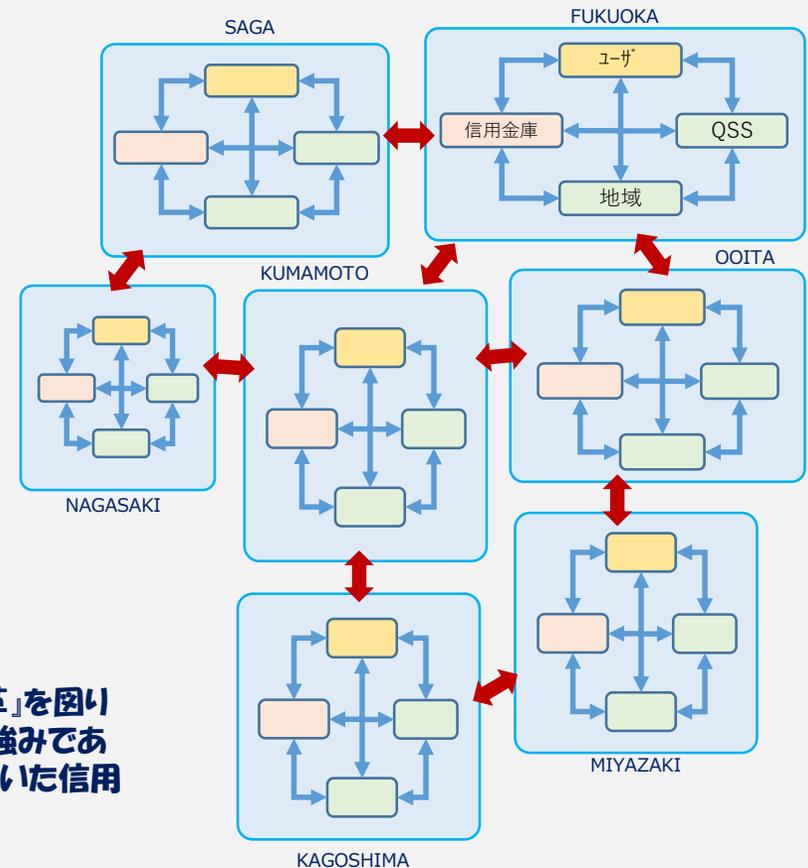


<QSSの変革>

- ★内部構造の変革
- ★IT進化の対応
- ★収益構造の変革

(To-Be) 新たな共創へ

新たなデジタル技術の活用で、地域全体が相互扶助の精神で地域を共創していくデジタル社会の実現を信用金庫と共に目指す。



新たな Face to Face の実現!

金融環境が激変する中、「内部環境の変革」「IT進化の対応」「収益構造の変革」を図り信用金庫取引先や自治体等を新たなステークホルダー(ユーザ)とし、当社の強みであるデジタル技術を活かし、信用金庫とユーザの支援(DX)を行い、地域に根付いた信用金庫と共に、地域の発展に貢献できる「頼れるQSS」を目指します。

DX_BusinessModel



2. ロードマップ

既存の効率化支援

信用金庫経費削減および事務の合理化を第一義とし
より効果的な安定したシステム等の提供拡大

IT技術を活用した事務処理態勢の確立
(信用金庫、社内)

データ還元

システム提供

ATM監視

ハウジング
ホスティング

変革

地域社会に密着した信用金庫およびステークホルダーの支援
<デジタルイゼーション・デジタルライゼーション>

信用金庫およびステークホルダーのDX化支援

地域社会の活性化に貢献～地域共創社会の実現

ビジョン実現に向け当社のDX化推進
(新ビジネスモデルへの挑戦)

新たなサービスへの共創

最新のサイバー攻撃の動向モニタリングによる、サイバーセキュリティ対策の常時最新化検討・対応

1年目

n年目

DX_Internal Reform



3. 社内改革

内部構造の変革

IT進化への対応

収益構造の変革

社内イノベーション

新ビジネスモデルの実現
<クラウドの積極活用>
<業務開発の内製化強化>
<ステークホルダーの拡大>
<レガシーシステムのモダナイゼーション>

地域に根差した信用金庫と共に地域の発展に貢献
【共創社会の実現】

ビジョン実現に向け当社のDX化推進 三つの戦略

テーマ	課題	ソリューション	DX推進施策	
ビジネスモデルの再構築	内部構造の変革	<ul style="list-style-type: none"> ◆社内の構造改革、社員の意識改革やリスクリング、IT技術者の採用で内製化の強化を図る。 ◆システム企画、開発、運用、保守の標準化。 ◆デジタル技術を活用した社内情報の一元管理 	<ul style="list-style-type: none"> ◆内製化強化プロジェクト（仮称）を充足させ、開発の標準化について検討。 ◆社員の技術習得等に向け積極的な外部研修受講を可能とする社内体制の整備 ◆クラウド、AI技術の習得 ◆人事制度改革 <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な組織改革 ・人材確保 ・人事考課の見直し ・資格取得制度新設 ・外部研修積極受講の支援 ・テレワーク等の働き方改革 ◆新たなグループウェアでの情報共有 グループウェアでの情報共有ルールの確立。 	
	IT進化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆メインフレームからの脱却 ◆生成AI、クラウド等のITの進展に伴い、これらの技術を取入れた社内プロセス改革による生産性の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆レガシーシステムのモダナイゼーション ◆様々な業務プロセスの分析を行い、実用可能なIT技術の適用。 ◆当社先行導入による、メリットの享受。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆リライト、リプレース、リホストによるレガシーシステムからの脱却 ◆クラウド接続環境を整備し、クラウド化の推進を図る。 ◆業務プロセス変革で、経営ビジョン実現に向け資源集中。 ◆生成AIを活用した業務改革 ◆社内事務の効率化（ペーパーレス化、ワークフローの導入、グループウェアの更改等）。
	収益構造の変革	<ul style="list-style-type: none"> ◆信用金庫との取引がほぼ100%を占めており、その中でも今後、減少が予想される業務もあり、新たな収益源の確保が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆積極的なIT活用に基づく新ステークホルダーの確保、支援や新規業務の拡大および既存業務のブラッシュアップ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆業務プロセス改革による余力資源を新規業務へ傾注 ◆新たなステークホルダー（信金の顧客等）確保および支援 <ul style="list-style-type: none"> ・信金、信金顧客DX支援 ・信金、信金顧客のデジタルイノベーションの支援 ◆信用金庫と共に地域社会の発展への貢献（共創）

DX_Support



4. 信金支援

DX推進戦略(信金業務の効率化支援)

対象	課題	ソリューション	DX推進施策
信金	信用金庫のデジタル化 (信用金庫と取引先)	タイムリーなデジタルツールの提供	他業態に立ち遅れることなく、地域特性を踏まえた信用金庫が地域内のお客様の利用用途・利便性にマッチした最適な体験をリアルとデジタルを融合させながら持続的に提供し、そのお客様の節目に無くてはならない金融機関として存在するために、タイムリーで多様なデジタルツールの提供を目指す。
	営業活動に傾注できる態勢強化	更なる事務処理の効率化	信用金庫取引先との書類授受の電子化、ペーパーレス化、コミュニケーションツールの提供等により営業活動時間の拡大を図る。
	スピード感を持った意思決定	リアルタイムデータの取得	業界の勘定系等のオンラインシステムを利用したタイムリーなデータを信用金庫へ提供し、信用金庫のより迅速な意思決定に貢献する。
	機器の管理等からの解放	当社データセンターの活用拡大	信用金庫がオンプレミスで管理している機器を、当社データセンターへのハウジングやホスティングを行い、信用金庫職員の負担軽減を図りたい。更には、クラウドの活用等も視野に入れ、信用金庫の機器管理業務を軽減したい。

DX_PromotionStraegy



5. 共創

DX推進戦略(新たなサービスでの共創)

対象	課題	ソリューション	DX推進施策
信金	人口減少や高齢化、過疎化が進む中、各地域に根差した信用金庫が共創社会を実現するためには、経営基盤の安定が必須。	デジタルを活用した経営の効率化、業務改革、営業改革等を信用金庫のDXで実現。	信用金庫のDX支援のため、パイロット金庫で当社が支援ノウハウを磨き、他金庫へ応用可能となるよう対応を図る。
	信用金庫の顧客（経営者層含）は、中高年層が多く、将来の顧客減少歯止めのため、若年層との取引拡大が喫緊の課題となっている。	デジタル技術を活用した「新たなFace to Face」の実現で若年層取引の拡大	若年層（経営者層含）が金融機関に望む価値観に適合したデジタルサービスを信用金庫と共に研究、開発し、若年層が期待する金融機関として信用金庫が選ばれ、地域に根差す信用金庫の活性化により、地域経済の好循環から地域の活性化へと繋げていく。 また、信用金庫の中心的な取引先である中高年層に対しても、同世代にマッチしたデジタルツールを提供し、必要とする新たな価値を中高年層と信用金庫とが共有し、世帯取引の拡大を図り、信用金庫経営の安定化、ひいては地域経済の活性化に寄与することへと繋げる。
ステークホルダー	ステークホルダー支援（当社新業務の立上げ）	信用金庫の支援を仰ぎながら、信用金庫と共にデジタル技術を活かしたステークホルダーの活性化に尽力	本業務は当社の新規事業であり、困難も予想されるが、当社のデジタル技術を活かし、ステークホルダーのデジタイゼーション・デジタルライゼーションを実現し、更には、DXを支援し地域社会の活性化に貢献する。

DX_EnvironmentalArrangement



6. 環境整備

1. クラウド活用の推進

クラウドの活用を図り、より効率的な業務の効率化を図る。

2. AI技術の活用

AI技術活用業務の選別を図り、内部事務等の効率化実現。

3. リスキリング

社員教育については、資格取得等の奨励を行い、新たなスキルの向上を図る。

4. 業界内の連携強化

信金業界の中央組織を始め、各地区情報会社等との連携を強化し、新たなサービスの提供を目指す。

5. データガバナンス体制の強化

情報セキュリティ、個人情報保護法、更には知的財産権の保護等の遵守のため、データガバナンス体制の更なる強化。

6. BCP等の態勢強化

ステークホルダーに影響が及ばないBCP等の態勢強化。

7. 研究環境の充実および社内IT化の推進

新たな技術の導入には、様々な事前研究が必要であり、研究を行う環境が必要となる。
環境構築には、投資が必要となることも考えられるが、費用対効果を勘案し対応を図ることとする。
また、社内事務においてもペーパーレス化やテレワークの推進等も図っていく必要がある。

DX_KPI_Indicator



7. 指標

KPI指標(定性指標)

項目	施策	K P I		
経営者	経営者間で認識を共有し、DXプロジェクトに関し積極的な関与およびビジョン実現に向け、強力なリーダーシップを発揮すると共に、経営者の意思を全社員に浸透させ、全社一丸となりプロジェクトを推進させていく必要がある。また、プロジェクトの進捗度合等を把握し、適切な方向性へ対応を図る。	経営者は、DXプロジェクトチームより定期的に報告を受け進捗度合等を把握すると共に適切な方向性への対応を図っているか。(2カ月に1度)	5段階評価	常に4評価以上
体制整備	全社挙げてDXプロジェクトを実現する必要があるが、推進体制を万全の状態にしておくこと。	定期的に体制チェックをDXプロジェクトチームと経営者で行い、必要に応じ体制(態勢)の適切化を図っているか。(2カ月に1度)		常に4評価以上
	信用金庫や信用金庫のお取引先に提供する様々なサービスを実現するため、情報会社として適切なIT技術レベルを維持する必要がある。	IT技術の習得度を客観的な評価。 (四半期毎) ※自己評価が困難であればベンダー等へ依頼。		常に4評価以上
	クラウド接続、AI技術の活用	クラウド接続、AI技術の活用の進展具合		常に4評価以上
	当社サービスをステークホルダーへ安心して利用して頂くため、情報セキュリティ、個人情報保護、知的財産権の保護等に関して、万全の対応を図らねばならない。	各種法令を遵守すると共に、情報セキュリティ等に関し対応を図っているか。(半期毎) ※自己評価が困難であればベンダー等へ依頼。		常に4評価以上
社内意識改革	社員全員が共通認識のもと、社内事務の効率化や組織の活性化について、持続的に高い意識を持ちDX推進する必要がある。	社内事務の効率化やDXに関する社員のモチベーション等について定期的に経営者が評価する。 (四半期毎)		常に4評価以上
信用金庫の評価	当社のサービス提供先である信用金庫からの評価	定期的に信用金庫に対しアンケート調査を実施する。(半期毎)		常に平均4評価以上

KPI指標(定量指標)

項目	施策	KPI DX指標サービス	3年後目標 (増加数)
信用金庫取引先 (ステークホルダー)	ステークホルダーとの関係強化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ステークホルダーからの相談 ▶ステークホルダーへの商品提供成約 	年間相談件数50件 年間成約件数15件
信用金庫	信用金庫のIT化、DX化に向けて貢献	信用金庫からのDX相談	15金庫
		信用金庫からのDX伴走支援依頼	3金庫
		IT・デジタルツール商品(注)の導入金庫数	15金庫
レガシーシステム からの脱却	リライト、リプレイス、リホスト	進行度合い	自社評価 (百分率表記)
当社のIT化	当社IT化の推進	ワークフロー、電子契約、電子帳票の導入運用	導入稼働
DX人材育成	3年後目標：意識改革に向けたセミナー受講(全員)、ITパスポート受験、その他必要に応じた資格取得 (推奨：情報セキュリティーマネジメント、基本情報技術者、応用情報技術者)		

(注) IT・デジタルツール商品

- ・コミュニケーションツール
- ・商品説明動画作成サービス
- ・CRM(顧客関係管理)ツール活用
- ・タイムスタンプの取得
- ・電子帳票の提供
- ・しんきん共同センターとのAPI連携サービス
- ・金庫独自システムからの解放(金庫システムの代替対応、オンプレミス環境からの脱却)等

DX_Security



7. セキュリティ

「情報セキュリティ基本方針」を遵守し、既存の「サイバーセキュリティ管理態勢支援サービス」を基本にすると共に、「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン」に準拠した対応を図り、SECURITY ACTION制度に基づき「★★」を宣言する。

また、3年後の目標として国際認証規格「ISO/IEC27001」の取得を目指す。

情報セキュリティ基本方針

株式会社九州しんきん情報サービス（以下、当社）は、信用金庫からお預かりした情報資産や当社の情報資産を事故・災害・犯罪などの脅威から守り、お客様ならびに社会の信頼に応えるべく、以下の方針に基づき全社で情報セキュリティに取り組みます。

1. 経営者の責任

当社は、経営者主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。

2. 社内体制の整備

当社は、情報セキュリティの維持及び改善のために組織を設置し、情報セキュリティ対策を社内の正式な規則として定めます。

3. 従業員の取組み

当社の従業員は、情報セキュリティのために必要とされる知識、技術を習得し、情報セキュリティへの取り組みを確かなものにしていきます。

4. 法令及び契約上の要求事項の遵守

当社は、情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、契約上の義務を遵守するとともに、信用金庫および信用金庫のお取引先の期待に応えます。

5. 違反及び事故への対応

当社は、情報セキュリティに関わる法令違反、契約違反及び事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。

制定日：2024年7月1日
株式会社九州しんきん情報サービス
代表取締役社長 井倉 眞

DX_System



8. 体制・形態

株式会社 九州しんきん情報サービス 組織図



【人材の育成・確保】

社員のDXリテラシーの向上を戦略の一環として掲げており、社員一人一人が自己の能力向上に積極的に取組める環境整備（人事考課、経済的な支援等）を再構築いたします。

また、人材確保にあたっては、定期的な新規採用や有能な人材の中途採用を継続して行って参ります。

【外部組織との関係】

信用金庫業界設立の「一般社団法人しんきん共同センター」（業界オンライン業務稼働）や他の中央組織またシステムベンダーと当社は緊密な関係が構築されており、今後もこの状態を維持して参ります。

株式会社九州しんきん情報サービス

